

城かべ 古代漆喰 屋根中塗用

- 古代の技術を現代に再現した古代漆喰。その優れた耐候性は、屋根しつくいとしても最適です。太めのスサと骨材を配合して、強度をアップしました。
- 従来の既調合しつくいとは異なる、全く新しいタイプのしつくいです。
- 完全な無機質材料で変質劣化せず、保存期間は無制限。
- 練り状なので、現場での面倒な作業は一切不要。
- 乾燥すれば白く硬く仕上り、そのままの仕上げも可能です。



商品概要

- | | |
|------|----------------------|
| ①品名 | 城かべ古代漆喰屋根中塗用 |
| ②性状 | 白色半練り状 骨材入り |
| ③主原料 | 消石灰、植物繊維、細骨材、植物油、その他 |
| ④荷姿 | 20kgポリ袋 |
| ⑤用途 | 壁中塗り、屋根工事 |
| ⑥用法 | 開封してそのまま使用 コテ塗り |
| ⑦塗面積 | 5㎡(1.5坪)/2.5mm |

城かべ 古代漆喰 屋根中塗用

施工要領

1. 混練

- ① 開封する前に袋の上から軽く踏みほぐしておきます。
- ② 袋から直接コテ板に取り出してお使い下さい。多く使用する場合は容器に移して練ると良いでしょう。
- ③ 油はあらかじめ添加していますが、追加したい場合は「城かべ油」を添加して、良く練ってください。
- ④ 固い場合は少量の水を加えて下さい。
- ⑤ 壁の中塗には、砂を10kg程度と少量の水を加えて下さい。

2. 下地処理

- ① 屋根瓦の鹿子止めは、瓦表面の汚れを取り、シーラーを塗布して下さい。
- ② 左官下地は完全に養生、乾燥させて、シーラー引きをして下さい。

3. 塗り付け

- (屋根) ① 晴天の続く時期を選び、一気に仕上げて下さい。
 ② はじめ薄くしごき塗りした後、5mm程度の厚さで数回に分けて塗り重ねます。
 ③ 塗付後1日おいて、改めて表面を押えておくことと長持ちします。
- (壁) ① 砂割りしたものをしごき塗りし、不陸を直します。
 ② 金コテで充分押さえて下さい。(刷毛で軽く目荒しておきますと上塗りが掛けやすくなります。)
 ③ 上塗りは生乾きのうちに追いかけて塗ってください。(上塗り用を参照)

試験項目(試験方法)

①安定性試験 (JIS-A-6902)	②表面硬度 (JIS-A-6904, 6908)	③接着強度 (JIS-A-6909)	④耐候性試験 (JIS-A-5400 ウエザーメーター)	⑤凍結融解試験 (-30℃~80℃ 10サイクル)
合格	25.0	2.5kgf/cm ²	異常無し	異常無し

施工上の注意

- ① 砂割りする場合、砂の量が多すぎると強度不足になりますので、規定量を守って下さい。
- ② 土中塗や付着しにくい下地、施釉瓦には必ずシーラー引きを施してください。
- ③ 冬期の屋根工事は凍害が起こりやすいので気温に注意してください。
- ④ 乾燥してしまうと上塗りが付かなくなりますので、上塗りは必ず追いかけて塗りをしてください。

製造



田川産業株式会社

〒826 福岡県田川市大字弓削田1924番地
 TEL 0947-44-2240
 FAX 0947-44-8484